寄せ太鼓

第　4　号
平成14年7月1日発行
北九州市立長崎街道
木屋瀬宿記念館
運営協議会広報部会
℡６１９－１１４９

運営協議会各部会の紹介

○こやのせ座運営部会　　こやのせ座運営部会　柴田　泰助・藤　嘉量

・こやのせ座運営部会の組織と運営形態

こやのせ座運営部会は、木屋瀬宿記念館運営協議会に参画する地元９団体（木屋瀬地区十三町内自治区会・老人会・宿場踊り保存会・史料保存会・商工連盟・商栄会・青年会・宿場木屋瀬街づくりの会・街づくり婦人の会）から選出された理事（２名）、委員（２６名）、運営ボランティア（約４０名）から構成され、事業運営に関しては、月例の部会会議に提議された案件を協議検討のうえ企画立案し、木屋瀬宿記念館運営協議会の理事会（参画９団体代表理事・現在８名）の承認を得て実施される仕組みとなっております。

・こやのせ座運営部会の内容

２１世紀の幕開けと共に《地域の振興と活性化を趣旨とする町づくりの活動拠点》として開館以来１年半、様々な活動を展開して参りましたが、なかでも《歴史的文化財を活かした町づくり》の一環として実施した、木屋瀬イロハ歌留多大会（１月）、木屋瀬芸術祭（５月）、木屋瀬祇園宿場祭協賛事業（７月）、宿場祭り協賛事業（１１月）は、今後、年間の定例行事として組み込む事となり、週間定例行事としては、現在、金曜日の社交ダンス講習会・火曜日の宿場踊り講習会を行い、今また広く多くの方々と共に木屋瀬の歴史と歴史的文化財に触れる試みとして木屋瀬雑学講座、更には小・中学生の週休２日制実施と夏休みを活用する児童向けの事業を企画準備中でございます。

・こやのせ座運営ボランティア登録のお願い

年齢・性別・住所は問いません。

ボランティア登録いただきますと会議や事業内容の連絡をさせて戴きますので、お時間の許される時に出来得るボランティア活動にご協力下されば結構です。

尚、本年度は、こやのせ座運営ボランティアの中から熱意の有る方を「こやのせ座運営委員」として推薦し、木屋瀬宿記念館運営協議会にご参画いただく所存です。

＊連絡先　℡０９３－６１９－１１４９　木屋瀬宿記念館　まで

○　委員の紹介

部会長　柴田　泰助

委　員　藤　嘉量、神木　茂徳、藤本　隆雄、中村　和美、川原　国聖、石津　充、山田　靖、八尋　弘文、須山　富生、今川　雪雄、田中　明、坂本　今朝武、桜井　春樹、佐々木　浩人、今川　勝則、柳　勝二、奥　智照、長野　誠一　麻生　太一郎、溝上　恵、田倉　紀子、高倉　敦美、山本　悦子、梶原　多美子、小林　恵津子、松尾　祐二、合屋　立枝（順不同）

木屋瀬宿記念館の利用状況

平成１３年１月１日に開館して以来、多くの人に利用していただいています。
平成１４年１月～５月までの利用状況は次のとおりです。

	みちの郷土史料館	こやのせ座		みちの郷土史料館	こやのせ座
1月	９８０	７７０	4月	７９７	１，０６５
2月	９０３	５２０	5月	１，０６５	１，０４５
3月	９８５	６４０	合計	４，７３０	４，０４０

こやのせ座を利用してみませんか？

こやのせ座は、木屋瀬宿記念館にある多目的小ホールです。

こやのせ座は、記念館の行事を行う日以外は、貸館として、一般市民の方にも利用していただけます。

利用方法は、次の３種類があります。
① こやのせ座全体の利用
② こやのせ座の客席のみの利用
③ 客席横の和室のみの利用

特に、②・③については、利用料金を安価に設定しています。

芸術・文化活動の練習・発表会、俳句会や会議などに利用されてはいかがでしょうか。平日は利用可能な日が多くあります。

こやのせ座の予約状況・利用料金等のお問い合わせは、記念館までお願いします。

℡６１９－１１４９　木屋瀬宿記念館

第１回木屋瀬芸術祭

５月３日～６日、木屋瀬宿記念館及び木屋瀬界隈において、木屋瀬宿記念館運営協議会主催による「第１回木屋瀬芸術祭」が開催されました。

期間中は、町づくりシンポジウム、落語会、スケッチ大会などがあり、多くの人で賑わいました。

この木屋瀬芸術祭は、来年以降も定例事業として行われる予定です。

○こやのせ座の今後の行事

木屋瀬祇園宿場祭協賛事業

木屋瀬祇園宿場祭のビデオ上映、写真展を開催します。昨年も開催しましたが、大好評でした。

木屋瀬祇園宿場祭見学の合い間に、是非ご来場ください。

日時　7月13日（土）・14日（日）
　　10：00～19：00

○みちの郷土史料館の今後の行事

企画展　「梅本家展」

街並み資料館シリーズの第３弾として、江戸時代には船庄屋をつとめた旧家「梅本家」を取りあげます。貴重な絵画や掛け軸を中心に約80点を展示します。

日時　7月5日（金）～8月18日（日）
　　9:00～17:30（入館は17:00まで）
入館料　一般200円、高校生100円、
　　小中学生50円

＊「寄せ太鼓」は広報部会の委員が中心となって発行しています。

広　報　部　会

部会長　本松　達也

委員　千々和　裕、米永　博實
　　野口　靖彦、伊藤　征剛
　　矢野　圭樹、北崎　隆喜
　　柴田　由美子、小河内　励子

＊故岩尾四十三郎氏著書「ひろき庭」より掲載しています。

筑前木屋瀬お祭りのごっつおう（ごちそう）その四

正月（むつき）

ほだれな（十四日）
○しめをはづし、オトビを入れち白ごぜんを炊く○お神さまには、穂垂菜（葉つき大根の小さいのをいがいたもの）を供へる。

しめ焼き（十五日）
○しめ焼きの火で、お鏡を焼いちいただく（夏患ひせぬため、中風が出らぬため）。

わたしの昔話
～木屋瀬～

わしらの若いころは「成人式」というもんは特別なかった。しいて挙げるとすれば「徴兵検査」やろうか。

兵隊になるための検査なんやが、わしらにとっては、大人の仲間入りをする大切な儀式でもあった。

今は、女の子がきれいな晴れ着を着て行きよるようやが、昔は、男が羽織・袴を新調してもろうて、パリッとした格好で行きよった

検査は直方でやりよったように覚えとる。

ところが、検査場に入ると「服を脱げ」と言われる。そして「褌（ふんどし）を取れ」と言われ、すっ裸にされて、頭の上から足の先、尻の穴まで調べられる。そやけど不思議と恥ずかしさはなかったね。これで大人になれるという緊張感があったからやろか。

帰りにみんなで記念写真を撮りに行った。カンカン帽子をかぶったり、鳥打ち帽をかぶったり、今見ても、モダンな格好をしとるね。

この日から、わしらもりっぱな大人。酒やたばこも大手を振って飲める。ただ、それまでも隠れて飲んだことはあるけどな。ハハハ・・

木屋瀬は、連帯意識の強いところで、わしらもこの日あったことをすべて後輩に話してやる。わしらが、先輩たちから教えてもろうたのと同じように。

＊　昭和六十年の市政だより「わたしの昔話」～木屋瀬～　故柴田豊廣氏の談話より引用しました。

木屋瀬小学校運動会
～児童が木屋瀬盆踊りを披露～

木屋瀬小学校ＰＴＡ会長　藤　嘉量

五月二十六日、木屋瀬小学校の運動会が晴天の中行われました。

星ヶ丘小学校と分かれて始めての運動会で、児童数も約三百七十人になり、運動場が少し広くは感じられましたが、子供達のかわらない元気な声と頑張りに観客からも大きな声援が送られました。

観客も、昨年とは違いゆっくり座って応援する事が出来、子供達の演技もよく観ることが出来ました。

また、校長先生の「地域の歴史と文化を授業の一環として学ぶ」と言う事で、「木屋瀬盆踊り」を踊ってはどうかと言う事になり、二週間前、五人のお父さん方が学校に指導に行き、二学年ごとに、一時間づつ指導をして下さいました。

その後は、先生方と、踊れる子供達が中心となって、昼休みの時間を使って皆な一生懸命練習を行ない、三十年ぶりに全校児童による「木屋瀬盆踊り」通称「宿場踊り」を踊る事が出来ました。

子供達ののびのびとした演技で、盛大な内に運動会を終える事が出来ました。

遠賀川と木屋瀬

五千年前まで、遠賀川は木屋瀬の辺りまで深い入り江であった。それが二千五百年前頃から、今に近い緩やかな勾配の川となり、底の浅く平たい「ひらた」（艀・平太）が記録に見えるようになる。

そして、室町時代初頭の「麻生文書」に「木屋瀬ノ津」の記述があり、連歌師宗祇（れんがしそうぎ）の紀行文「筑紫道記」に、北部九州の覇者、山口の大内氏（守護職）の家来・陶弘詮（すえひろあき）（筑前守護代）の屋敷が木屋瀬にあったという記述がある。この頃から、木屋瀬は遠賀川水運の重要な拠点であった。

江戸時代に入り、福岡藩が主に年貢米を積み出した船場が土手の大銀杏の下辺りにあったという。筑前の豪商伊藤小左衛門父子が地元木屋瀬を出て、博多で活躍したのも、遠賀川水運による商いの財があったからこそであろう。

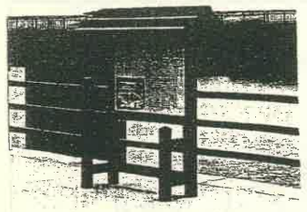
江戸時代中期から明治時代中期にかけ、この地方で採られた石炭（筑前藩では焚石（たきいし））が輸送され、更に水運は盛んになった。

明治時代までの数多くの水害に見舞われた遠賀川であったが、十年をかけた改修工事が大正六年竣工した。

また、同じ年に、初代の「中島橋」が架けられた。以来、水害も減り、交通も便利になった。

江戸時代中期に、遠賀川の水を引いた「岡森用水路」ともども遠賀川と木屋瀬とのつながりは密なるものがある。

＊　この文は、今回整備された遠賀川河川敷展望台の掲示板より引用しました。



学業の向上を祈願！
扇天満宮の学神祭

徳永　興紀

扇天満宮は、菅原道真公が祭神として鎮座し、室町時代の連歌師宗祇が当地に宿りし折、夢に天神が現われ、扇を賜ったという故事に由来して名づけられている。

当地では、子供たちが学齢に達すると男子は牛・女子は梅の字を本宮に奉納し、進学を祈願する習わしが伝えられている。

本年もこの習わしにもとづき、五月二十五日（土）十六時より「学神祭」が執り行われることとなった。神殿には「うし」「うめ」の習字が奉納掲示されている。

男子十二名、女子七名の新一年生が参加、それぞれ揃いのハッピを羽織り、神前に神妙にかしこまる姿は、何ともほほえましい。

父兄や当番町の方々の見守る中で、お祓い、祝詞、玉串奉典と祭礼がすすみ、新一年生を代表して、岩尾だいじろうくんが拍手を打った。

昨年境内でとれた梅の実でつくった梅酒のお神酒に、ほんのりと頬を染める光景もみられ、和やかなうちに祭礼が終った。

そのあと天満宮代表役員の力丸清さんより「きちんとあいさつのできる子に、そして勉強も大事だが、元気が何より大切」と激励のことばが述べられた。

木屋瀬の伝統的文化を版画刷りした額ぶちが「茶目気一輪」で用意され、末松宮司を通じて記念品として子供達に手渡された。

最後に子供達の手により、神殿の横に紅梅の植樹を行ない、父兄や当番町で準備された菓子やジュースがおみやげとして配られた。

子供達は、この祭礼を通じて何を思い何を感じただろうか？

可愛い子供達の学業の向上と健やかな成長を心から願うものである。

このあと午後七時より、扇天満宮の例祭が太鼓の打出しのもとはじめられた。例祭には、天満宮責任役員をはじめ、自治区会正副会長、各町町内会長、氏子総代、青年会、商工連盟など木屋瀬の有志が参列されおごそかにすすめられた。

祭礼後の直会では、当番町の東中町で準備された手造り料理を囲んで懇親が和やかな雰囲気の中で始められ、木屋瀬の伝統文化や祭事、町の将来、子供たちにかける夢など談笑の中で多くの話題が語られ、時間の経過を忘れさせる程であった。

こうして本年度の扇天満宮祭がお開きになった。

来館者の声

木屋瀬春席
（四月十四日　こやのせ座）

○　実に近い所に良い劇場が出来て、いつも素敵な催し物を徒歩で観ることができ感激しています。（八幡西区・六十代以上・女性）

○　燕路さんに二席位話をして欲しかったです。二楽さん、前座さん楽しかったです。（小倉南区・四十代・女性）

○　「紙切り」を生で見れてとても感激です。小さい子連れ親友達を誘えます。昼間にあれば、もっと子供達がくると思うのですが（八幡東区・三十代・女性）

○　今後、催し物がある時、連絡をいただけたらありがたい。（筑穂町・四十代・男性）

○　二十五年ぶりの生の落語楽しかったです。又、機会を作って下さい。（八幡東区・六十代以上・男性）

木屋瀬春席